平成25年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年9月13日

上場会社名　株式会社 ナイガイ　　上場取引所　東
コード番号　8013　URL　http://www.naigai.co.jp/
代表者　(役職名) 取締役社長　(氏名) 泉　潔
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門担当　(氏名) 市原　聡　TEL 03-5822-3810

四半期報告書提出予定日　平成24年9月14日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　(プレス向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年1月期第2四半期の連結業績(平成24年2月1日～平成24年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年1月期第2四半期	8,234	2.9	△44	―	△46	―	△58	―
24年1月期第2四半期	8,004	△1.0	△87	―	△107	―	△139	―

(注)包括利益　25年1月期第2四半期　△39百万円　(―%)　24年1月期第2四半期　△234百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年1月期第2四半期	△0.79	―
24年1月期第2四半期	△1.88	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年1月期第2四半期	12,172	6,869	56.3	92.62
24年1月期	12,493	6,908	55.2	93.16

(参考) 自己資本　25年1月期第2四半期　6,853百万円　24年1月期　6,894百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年1月期	―	―	―	0.00	0.00
25年1月期	―	―			
25年1月期(予想)			―	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年 1月期の連結業績予想(平成24年 2月 1日～平成25年 1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,800	△1.8	200	39.3	150	28.9	120	57.9	1.62

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年1月期2Q	78,281,815 株	24年1月期	78,281,815 株
② 期末自己株式数	25年1月期2Q	4,280,320 株	24年1月期	4,276,543 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年1月期2Q	74,003,934 株	24年1月期2Q	74,010,757 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想値と異なる場合があります。業績予想に関しましては、【添付資料】3ページ「1. 当四半期の連結業績に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 4
４．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 8
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 10
（６）セグメント情報等 …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間の我が国経済は、３月、４月に消費を押し上げた震災反動需要にも一巡感がみられ、復興事業の執行による公共投資が牽引するも、依然としてくすぶり続ける欧州経済危機問題、国内の電力問題など心理的な不安要因も重なり、５月以降の個人消費が再び減速するなど全般に力強さに欠ける展開となりました。

衣料品業界におきましても、３月、４月は昨年の震災反動で、春物ファッションが大きく前年を上回るなど順調な滑り出しとなったものの、５月、６月は低温、多雨など天候不順の影響もあり夏物衣料、クールビズ対応商品が苦戦、さらに７月はセールの分散化の影響で盛り上がりに欠けるなど、後半に向け不安定な商況で推移しました。

こうした中、当社グループといたしましては、引き続き卸売り事業の新規販路拡張、既存販路の収益力改善、通信販売事業でのインターネット通販の拡大とテレビショッピング通販の構造改革に取り組み、当第２四半期連結累計期間では構造改革中の通信販売事業は苦戦を強いられましたが、卸売り事業は計画を上回るペースで推移し、グループ全体では概ね計画通りの進捗となりました。

この結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は8,234百万円（前年同期比229百万円の増収）、営業損失は44百万円（前年同期は87百万円の損失）、経常損失は46百万円（前年同期は107百万円の損失）、四半期純損失は58百万円（前年同期は139百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績概況は次のとおりであります。

(卸売り事業)

レッグウェア事業につきまして、百貨店販路の紳士靴下プロパー販売は、ドレスソックスに加え、ハイゲージの柄物ショートソックスを中心に前年を上回るペースで堅調に推移いたしましたが、セール販売は、冬物セール期間の短縮、夏物セール時期の分散化の影響などで前年を下回り、販売合計はほぼ前年並みとなりました。一方、婦人靴下は、春先より美脚系トレンドの流れでパンスト類が好調となり、初夏以降はタトゥーパンストなどのトレンド商材が注目され前年を上回るペースで推移、ソックス類ではスニーカーブームやロンドンオリンピックへの注目もあり、スニーカーソックスが売上を牽引し、前年を上回る販売となりました。

量販店販路では、紳士靴下はＰＢを中心に涼感機能商材が比較的好調に推移、婦人についても初夏以降は、ペッツや期中企画で投入したタトゥーパンストが牽引、期末セールにつきましては７月に入り急激な気温の上昇もあり全般に好調な推移となりましたが、一般ブランド品は多雨低温の不安定な天候も影響し、紳士、婦人ともに販売は苦戦を余儀なくされ、量販店販路の販売合計は計画を下回る結果となりました。

専門店販路では、婦人靴下が主力のキャラクター商品を中心に苦戦したものの、パンスト、紳士靴下が好調に推移し、販路全体では概ね計画通りの販売となりました。

その他卸売事業の株式会社ＮＡＰ他、ロンデックス、ＯＥＭ、輸出、海外子会社の各事業については概ね計画通りの進捗で推移しております。

これらの結果、当第２四半期連結累計期間での卸売り事業全体の売上高は6,118百万円（前年同期比122百万円の増収）、営業利益は120百万円（前年同期は62百万円の損失）となりました。

(通信販売事業)

テレビショッピングを主体に展開する株式会社ナイガイ・イムは、引き続き事業の抜本的構造改革に取り組んでいるため、当期は減収、減益となりますが、主力のプロパーオンエア販売では、ブランドの再編集約による販売効率の改善施策を優先的に進める一方で、重点課題である在庫販売については、セール番組の拡大、ＷＥＢ販売の強化などを積極的に推し進めることで、徹底した在庫の削減に努め、早期の黒字回復を目指してまいります。

インターネットショッピングを展開するセンティーレワン株式会社は、バッグ販売、レッグウェア販売ともに楽天、ヤフー、アマゾンの各店舗で前年を上回るペースで売上を伸ばし、概ね計画通りの増収、増益を達成いたしました。また、新ブランドのゲンテンも期待通りの推移で消費者の認知を得ることができ、秋冬商戦よりの本格展開の準備が整いました。

これらの結果、当第２四半期連結累計期間の通信販売事業全体の売上高は2,186百万円（前年同期比18百万円の減収）、営業損失は163百万円（前年同期は22百万円の損失）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

（資産、負債及び純資産の状況）

当第２四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に対して320百万円減少し、12,172百万円となりました。流動資産では、現金及び預金が324百万円増加し、受取手形及び売掛金が419百万円、商品及び製品が220百万円それぞれ減少しました。固定資産では、有形固定資産がハードウェア等の取得により32百万円、無形固定資産がソフトウェア等の取得により47百万円増加しました。

負債は、前連結会計年度末に対して281百万円減少し、5,303百万円となりました。支払手形及び買掛金が380百万円、返品調整引当金が69百万円それぞれ減少し、短期借入金が261百万円増加しました。

純資産につきましては、四半期純損失58百万円とその他有価証券評価差額金の増加10百万円等により、前連結会計年度末に対して39百万円減少し、6,869百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.1ポイント増加し、56.3%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第２四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動で214百万円の獲得、投資活動で127百万円の使用、財務活動で231百万円の獲得となり、為替換算差額等を加えた合計で324百万円増加し、当第２四半期連結会計期間末残高は3,000百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失が46百万円となり、売上債権の減少425百万円、たな卸資産の減少228百万円等の増加項目が、仕入債務の減少391百万円等の減少項目を上回ったため、214百万円の獲得（前年同期は118百万円の使用）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得124百万円等により、127百万円の使用（前年同期は84百万円の使用）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増260百万円と、長期借入金の返済28百万円により、231百万円の獲得（前年同期は183百万円の使用）となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成25年１月期の通期業績予想につきましては、卸売り事業の量販店減収及び通信販売事業のテレビショッピング販売の減収を織り込み、 売上高で17,800百万円（当初予測比400百万円の減収）となる見通しですが、利益につきましては、売上総利益率の改善等で、営業利益200百万円、経常利益150百万円、当期純利益120百万円と当初計画通りでの着地を見込んでおります。

また、個別業績につきましても、量販店の減収及び株式会社ナイガイ・イムへの輸入振替の計画修正を織り込み、売上高は12,700百万円（当初予測比630百万円の減収）となる見通しですが、利益につきましては、売上総利益率の改善、販管費の削減により、当初予想範囲での着地を見込んでおります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（追加情報）

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第１四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号　平成21年12月４日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号　平成21年12月４日）を適用しております。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度におきまして、経営合理化策が概ね完了し、営業利益の黒字化を果たすことができましたが、子会社の株式会社ナイガイ・イムの売上拡大に伴う在庫の急増により、収支バランスが悪化したことから、連結キャッシュ・フローがマイナスとなりました。

当連結会計年度は、株式会社ナイガイ・イムにおいて、展開ブランドの集約、SCMの再構築、在庫の削減を軸とした事業の抜本的改革を実施し、連結キャッシュ・フローの黒字化を計画しております。

当第２四半期連結会計期間末における資金ポジションから判断いたしましても、継続企業の前提に関する重要な不確実性はないと判断しております。

なお、当社グループは、厳しい経済環境下で予測される消費行動の変化に適切に対応し、グループ業績の安定的な黒字体制を確実なものとするため、以下の各課題に取り組んでまいります。

①中期経営計画推進による成長戦略の展開
- レッグウェア事業の新規販路シェアの拡大と既存販路深耕
- インターネット通販事業の拡大と収益力強化
- グループ内での直貿製販一貫連携による収益力強化

②株式会社ナイガイ・イムの抜本的事業構造改革による収支バランスの改善
- 展開ブランドの集約による事業効率の改善
- SCMの再構築による効率的な生産調達体制の確立
- 販売ルートの拡大による在庫削減

③2013年度を起点とする新三カ年計画の策定

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成24年１月31日)	当第２四半期連結会計期間 (平成24年７月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,318	3,643
受取手形及び売掛金	3,261	2,841
商品及び製品	2,901	2,681
仕掛品	9	12
原材料及び貯蔵品	86	78
その他	358	314
貸倒引当金	△37	△21
流動資産合計	9,898	9,550
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	58	54
土地	58	59
その他（純額）	93	127
有形固定資産合計	209	241
無形固定資産	291	338
投資その他の資産		
投資有価証券	1,856	1,863
その他	291	232
貸倒引当金	△54	△52
投資その他の資産合計	2,093	2,042
固定資産合計	2,594	2,622
資産合計	12,493	12,172

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成24年１月31日)	当第２四半期連結会計期間 (平成24年７月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,081	1,700
短期借入金	1,245	1,506
未払法人税等	39	30
賞与引当金	29	31
返品調整引当金	354	284
その他	625	532
流動負債合計	4,376	4,086
固定負債		
長期借入金	146	118
退職給付引当金	926	970
繰延税金負債	102	95
その他	34	34
固定負債合計	1,208	1,217
負債合計	5,584	5,303
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,592	7,592
資本剰余金	6,921	6,921
利益剰余金	△7,086	△7,145
自己株式	△460	△460
株主資本合計	6,966	6,907
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△51	△41
為替換算調整勘定	△20	△12
その他の包括利益累計額合計	△72	△53
少数株主持分	14	15
純資産合計	6,908	6,869
負債純資産合計	12,493	12,172

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 (自　平成23年２月１日 至　平成23年７月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　平成24年２月１日 至　平成24年７月31日)
売上高	8,004	8,234
売上原価	5,393	5,443
売上総利益	2,611	2,790
販売費及び一般管理費	2,699	2,835
営業損失（△）	△87	△44
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	17	20
持分法による投資利益	―	2
貯蔵品売却益	5	0
その他	10	9
営業外収益合計	34	34
営業外費用		
支払利息	14	20
持分法による投資損失	2	―
為替差損	23	9
その他	13	5
営業外費用合計	54	35
経常損失（△）	△107	△46
特別損失		
固定資産処分損	0	―
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	13	―
特別損失合計	13	―
税金等調整前四半期純損失（△）	△120	△46
法人税、住民税及び事業税	10	12
法人税等調整額	7	△0
法人税等合計	18	11
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△139	△57
少数株主利益	0	0
四半期純損失（△）	△139	△58

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 (自　平成23年２月１日 至　平成23年７月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　平成24年２月１日 至　平成24年７月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△139	△57
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△102	△4
為替換算調整勘定	△1	8
持分法適用会社に対する持分相当額	9	15
その他の包括利益合計	△95	18
四半期包括利益	△234	△39
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△234	△40
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 (自　平成23年２月１日 至　平成23年７月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　平成24年２月１日 至　平成24年７月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失（△）	△120	△46
減価償却費	19	33
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	13	―
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△0	△18
賞与引当金の増減額（△は減少）	25	2
返品調整引当金の増減額（△は減少）	△60	△69
退職給付引当金の増減額（△は減少）	33	43
受取利息及び受取配当金	△18	△21
支払利息	14	20
為替差損益（△は益）	△23	△9
持分法による投資損益（△は益）	2	△2
売上債権の増減額（△は増加）	195	425
たな卸資産の増減額（△は増加）	△139	228
仕入債務の増減額（△は減少）	△157	△391
その他	122	38
小計	△93	233
利息及び配当金の受取額	18	21
利息の支払額	△14	△21
法人税等の支払額	△29	△18
営業活動によるキャッシュ・フロー	△118	214
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6	△48
無形固定資産の取得による支出	△69	△76
貸付金の回収による収入	2	2
投資その他の資産の増減額（△は増加）	△11	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△84	△127
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△199	260
長期借入れによる収入	50	―
長期借入金の返済による支出	△33	△28
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△183	231
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	5
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△393	324
現金及び現金同等物の期首残高	3,086	2,676
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,693	3,000

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（６）セグメント情報等

Ⅰ 前第２四半期連結累計期間（自 平成23年２月１日 至 平成23年７月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額(注)１	四半期連結損益計算書計上額(注)２
	卸売り事業	通信販売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	5,799	2,205	8,004	－	8,004
セグメント間の内部売上高又は振替高	195	－	195	△195	－
計	5,995	2,205	8,200	△195	8,004
セグメント損失（△）	△62	△22	△85	△2	△87

（注）１．調整額はセグメント間の取引消去であります。

２．セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

Ⅱ 当第２四半期連結累計期間（自 平成24年２月１日 至 平成24年７月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額(注)１	四半期連結損益計算書計上額(注)２
	卸売り事業	通信販売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,048	2,186	8,234	－	8,234
セグメント間の内部売上高又は振替高	69	0	70	△70	－
計	6,118	2,186	8,304	△70	8,234
セグメント利益又は損失（△）	120	△163	△42	△1	△44

（注）１．調整額はセグメント間の取引消去であります。

２．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。